

「如実知見」をモットーに

同窓会長 山口 正和

この度、大沢肇会長のご退任のあとを5月25日の理事会・評議会で、はからずも指名、承認をいただき会長職を引き継ぐことになりました。

もとより、その器ではなく、皆さまのご期待に添い得られるか、極めて心配で戸惑いを感じています。

本会は、会員1万9千人を超える大組織であり社会の変革に伴う多くの課題の提起によって、同窓会も必然的に多くの課題を内包しています。

幸いにして諸先輩の賢明な知見により、会としての組織運営や、諸事業が堅実な歩みをしていることは喜ばしいことです。

これまでの歩みに習い、社会の動向などを見据えながら「如実知見」をモットーに正しい見解を求め、正しい行いを生み出すよう、及ばずながら精一杯その職責を努めてまいります。どうぞ、役員、理事、評議員ならびに会員の皆さまのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

特色ある改革は、学部の再編統合の懸念を払拭するか

ご承知のように、国の構造改革の動きに伴って、平成16年4月より岐阜大学は、国立大学法人岐阜大学として発足します。

本会に関わる緊要な課題は何といっても、教員養成大学における学部の再編統合の関心事であります。それは、今までの一県、一教育学部の原則を転換し教員養成の縮小に相俟って学部を再編統合し「骨太」の教員養成学部を創出していることにあります。このことは、母校の改変、存廃に関わることであり、ひいては同窓会の在り方に大きく影響を及ぼすことにもなり、事態への懸念が高まるものです。

しかし、岐阜大学教育学部にあって心強く思うことは、地域の実情に応じ学部の特徴を創出し、個性が輝く大学にと「教員養成の在り方」を積極的に協議され、次の3点が推進されていることです。

1. 学校教員にとって必要なカリキュラムの精選と見直しが図られています。
 - ・基礎、基本を重視する教育。



- ・教育現場のかかえる課題の解決に資する取り組み。
 - ・実践能力育成のために、学生に教育現場で学ばせる試み。
1年生～教育現場の実情を子どもを通してトライアルする。
2年生～広範囲な地域を現地でリサーチする。
3年生～従来の教育実習。（小、中学校4週間ずつ・介護実習1週間）
4年生～教育現場に出向き、ボランティア活動をする。
2. 現職教員の研修体制を補充、深化し、確立されています。地域教育界との連携のもと、現職教員への研修活動が積極的に進められています。
- ・一種免許状の修得者に専修免許状への機会を設けると同時に、その学修機会の公平化のため、遠隔教育による公開講義が進められている。
 - ・在勤校にあって、修得しやすい大学院修士課程が推進されている。
3. 教員の資質向上のための教員研修や社会進展に資する教育の推進が企画され実施されていることです。
- ・児童、生徒の学修を支援する学生の参加行事や大学教官による出前講座の実施。
 - ・教員の6年目研修の一部実施と12年目研修の計画など・・・です。

このように教員養成と教員研修の立場から、岐阜大学教育学部の特色ある教育構想が学部存続の懸念を払拭してくれるものと確信しています。しかしながら、学部のこれらの中期計画に対して、6年後大学評価機構の達成評価によって、実に学部が充実するか否かが「存続決定」の終目と考えられています。

母校へ熱き思いの再燃を

岐阜師範学校、学芸学部、教育学部へと、その名称は変遷してきましたが、母校への合格、入学、卒業には、人それぞれ度合いの差はあっても、涙あり感慨あり、感謝すらあったものではないかと想像いたします。そのたどった経緯はどうあれ、大学が必ずしも人生を決定する場所ではないとしても、今ある人生の礎になっていることは確かです。

あまり大学までの振り返りはないかもしれませんが、本会の「会員相互の親睦と学識を高め、併せて母校の発展と教育文化の進展に寄与する」の目的に向かって今一度、母校への熱き思いを喚起していただければ幸いです。

平成15年度理事会、評議会の承認を得て、長良跡地に教育学部創立130周年記念事業の一環として「記念碑建立」が立案、遂行されていることを報告いたします。その実行委員会の方々のご労苦に心からお礼申し上げます。

終りになりましたが、会員の皆さまのご健勝を祈念し、本会の更なる発展と充実を願ってご挨拶といたします。

大学の法人化を目前にして

教育学部長 佐々木嘉三

平成13年6月、小泉内閣の成立直後の「経済財政諮問会議」に提出された「大学（国立大学）の構造改革の方針」と、それに沿った形で11月に出された「国立の教員養成大学・学部 の在り方に関する懇談会」の答申に関連して、教育学部は統合・再編に大きく揺れ続けました。しかし、今年度に入ってから、国立大学法人化へ向かって、どのような教育研究を進めるかという「中期目標・中期計画」を策定するのが焦点となり、



統合・再編問題は全く沈静化したように感じられます。大きく取り上げられていた北東北の3大学（弘前・秋田・岩手）、南東北の3大学（宮城教育・山形・福島）、四国の全大学統合案や埼玉と群馬2大学の統合など、今ではいずれも何ら進展を見ていないと報告されております。さらに近県では、三重大学と和歌山大学との統合・再編問題も、昨今は両者による検討会すら開催されていないとのことです。教育学部の統合・再編問題とは一体何だったのかという疑問すら湧いてきます。渦中にあった学部長等の意見を聞きますと、大多数の方々からは、たいへんな時間と労力を使った組織問題の議論で疲れ果て、本来要望されていた教育改革の検討がすっかり遅れてしまったという後悔の情を述べる意見ばかりでした。以前にこの同窓会誌でもご報告させていただきましたように、本学では再編・統合問題については、早くから、いわゆる『自己完結型』で進むという結論を出し、教員養成の在り方・カリキュラム編成などを議論してきましたので、上記のような混乱が避けられたと有り難く思っております。

さて、再編が行われた教員養成学部としては、鳥根大学教育学部と鳥取大学教育地域学部の例があります。来年度より鳥根大学の教育学部が教員養成を担当し、鳥取大学は地域学部になるということが決定されております。再編・統合問題では大学で働く者たちだけの意見で決まるのではなく、地域の方々の意見の集約・合意が絶対に必要なのだということが証明されたと思っております

し、大学の存続や発展にも皆さんの意見が何より大事であると考えます。

他方で、同一県内にある単科大学間及び総合大学との統合は、かなり進展があり、以前に設置されていた99の国立大学数は、10大学減った状態で来年度に法人化されます。しかし新聞報道などでもご存じのように、統合後の大学運営の在り方、教育体制などでは、かなり困難な状態も在るようで、学長選考や授業担当で統合のメリットを生かすことができない状態も出ているようです。大学という社会も、長い歴史の中で解決されるべき問題を数多く抱えているのですから、当然かも知れません。

さて、本学の法人化問題の検討状況などを以下に書かせて頂きます。

本年7月に成立した「国立大学法人法」では、各大学がそれぞれ法人組織となり大学を設置することになっております。つまり、「国立大学法人岐阜大学」が「岐阜大学」を設置するという事です。分かりにくいかも知れませんが、私学の設置状態を見れば同様の形態となっておりますので、ご理解頂けるかと思えます。法人である岐阜大学の役員としては、学長と2名の監事、それに5名の理事が置かれ、教員や職員は「法人の職員」であり、全て「非公務員」の身分となります。

今まで、大学の重要事項を審議する機関として、主に教官からなる「評議会」が設置されておりました。しかし、『法人法』では、大学運営についての審議は過半数の学外者からなる「経営協議会」、そして教育研究について審議する職員等からなる「教育研究評議会」が設置されることとなります。法人化の目的としては、国民の要請に応える教育研究の発展、教育研究水準の向上と均衡ある発展、自己裁量権の拡大などが挙げられており、そのための組織・運営上の形態を決めてきたとされております。また各大学法人は、今後の6年間で単位とした「中期目標・中期計画」を作成して、文部科学省に設置された「国立大学法人評価委員会」による評価の後、大臣による設置認可を受けることとなります。上記のような法人組織がその役割を十分に果たしうるのかは、文部科学省による個別大学に対する対応、それぞれの大学の学長や役員、そして職員の意識改革も重要なファクターとして働くものと思えます。

『法人法』の国会審議ではこの法律に関連して、衆議院では10、参議院では23もの付帯決議が付けられました。このような事実からも、大学の在り方や教育

研究に対する問題点の大きさが痛感させられます。

岐阜大学では、2年程前に学長・副学長・部局長等による「法人化対応検討委員会」を設置し、下部組織として「組織・業務」「目標・評価」「財務」「人事」などの部会を設置して検討を進めてきており、その都度「検討委員会」の議論を踏まえた調整、再検討をしてきております。上記で述べた「岐阜大学の中期目標・中期計画」も各学部や評議会の審議を経て、9月末に文部科学省に出されました。他大学のものも含め、「中期目標・中期計画」は文部科学省のホームページでも公開されておりますので、ご確認頂きたいと思います。数値目標はほとんど挙がっておりませんが、今後の6年間の「法人化の第1期」の目標・計画を公表して、評価を受ける体制を創ったという段階です。

本学の法人化後の組織・運営形態と骨格もできあがりました。12月までには明確になる予定となっております。学部等は基本的に今までの通りで運営される予定ですが、副学部長を置くこと、学部によっては『(仮称)学部運営会議』などを設置して機動的な運営をすることなども計画されております。

今、最も難しい課題は給与・待遇・仕事内容を含む人事の在り方です。「国家公務員法」の枠内で定められていた身分から、「労働基準法」で定められる身分・雇用関係になりますので、極めて多様な事項について検討し、大学としての規則等を定めなくてはなりません。実際には急激な変更は難しく、今までの国家公務員としての処遇に準じた関係となるように検討されております。

財務関係では、来年度の予算案が政府で検討中の段階ですので明確ではありませんが、14年度実績を基準とした予算が計上され、交付金という形で本学にも渡されることとなります。今まで、教育研究上の基礎的な予算は、校費として出され、個別の大きな金額は「概算要求」として文科省と個別に交渉して取得する形になっておりました。今後は特殊な場合を除いて、大学内で交付金の配分を決めることとなりますので、各学部等としては「経営協議会」や役員会のメンバーに対し、十分に明確な要求理由を示し、理解を得なくてはなりません。今までの実績と方針を含む各学部の組織的な評価が問われる所以です。

最後に学部の現状について、概略を書かせて頂きます。昨年この会報で「ACTプラン」や教員の「研修」について書かせて頂きました。カリキュラムの完全実施は「全学共通教育」の体制変更も関連し、平成17年度からとなりま

したので、「ACTプラン」の完全実施は1年後となりましたが、部分的には来年度からも実施し、教員としての資質向上に向けた教育を強化する計画です。また、「岐阜県総合教育センター」と連携した「現職教員の10年経験者研修」では、全国に先駆けて、5日間の大学での研修を実施致しました。内容を今後も充実したものにしていかねばなりません、高い評価をして頂いていると聞いております。また、西濃地区(大垣市情報工房)に夜間大学院サテライト教室を開設致しましたし、来年度からは「附属学校サテライト」も設置致します。

今後は、一層皆様のご要望にも積極的に応えたいと考えますし、さらに強い連携の下に学部的发展を図りたいと願っております。

一層のご援助、ご協力をお願い致します。

平成15年11月

平成15年度 評議会記録

出席者62名、委任状114名、計176名

開催日時 平成15年5月25日
場 所 岐阜大学教育学部第1会議室

議事及び日程

1. 開 会 開会の辞(渡辺義行副会長)
2. 会長挨拶 (大沢肇会長)
3. 来賓挨拶 (佐々木嘉三教育学部長)
4. 議長選出 議長に野村俊朗氏を選出した
5. 議 事
 - ① 平成14年度事業報告
総務部会、組織部会、事業部会、広報部会より平成14年度の事業報告があり、これを承認した。
 - ② 平成14年度決算報告、監査報告
平成14年度決算報告並びに監査報告があり、これを承認した。
 - ③ 平成15年度並びに平成16年度同窓会役員選出
 - ・ 会長に山口正和氏を推挙する旨の報告が澤島昌彦会長推挙委員会委員長からあり、山口正和氏を全員一致で承認した。
 - ・ 山口正和氏挨拶
 - ・ 山口正和新会長より平成15年度並びに16年度同窓会組織・役員の委嘱がされた。
 - ・ 平成15年度並びに16年度同窓会役員紹介
 - ④ 平成15年度事業計画
 - ・ 四部会から平成15年度事業計画が提案され審議の結果これを承認した。
 - ・ 教育学部創立130周年記念事業について審議し以下を承認した。

長良跡地に記念碑を建立し、130周年記念事業の一環として位置づける。

記念碑建立にあたっては実行委員会を組織し、具体的な作業は必要に応じて運営委員会での承認をもって進めることとする。

記念事業の予算の大枠は500万とし、事業活動基金からこれを支出することとする。

⑤ 平成15年度予算

平成15年度予算案の提案があり、これを承認した。

6. 報 告

① 同窓会事務を教育学部3階「就職支援室」で行うことになったとの報告があった。

② 学部学生及び大学院生の就職状況について報告があった。

③ 平成16年度からの国立大学独立行政法人化に向けて、教育学部の取り組みと課題について報告があった。

7. 閉 会 閉会の辞（松尾勝美副会長）

8. 連 絡

評議会終了後第一回運営委員会及び各部会の開催について連絡があった。

平成14年度教育実践研究助成事業のまとめ

事業部会長 赤池 潔

本同窓会事業の大きな柱である教育実践研究助成事業は、岐阜県における義務教育の振興・充実を期して昭和60年度にスタートし、今年度で第18回を迎えた。教育の直接の担い手である教職員の資質の向上が強く要請されている今日、本事業がそれに応え得る成果を多々挙げていることを誇りに思い、この事業の意義の重さを実感している。

本年度は、県内1,424名の教職員から1,353点の論文が寄せられ（昨年比50名増）岐阜県教育の推進の重責を担ってご活躍の関係機関の先生方に厳正な審査をいただいた。

その結果、最優秀賞には、岐阜市立長良西小学校服部晃幸教諭の論文『社会生活の意味を追求し、自らの生き方を創り出す子（社会科）』が選ばれた。さらに優秀賞9点、優良賞40点、新人賞20点が入賞論文に選ばれた。

いずれの論文も、「教育の今日的課題に応えるものか」「児童生徒の成長や変容の姿が明確にとらえられているか」「ねらいを明確にした継続的、累積的な実践研究であるか」等、多面的、多角的な審査基準に照らして評価された。

この事業が本同窓会の関係各位のご努力もさることながら、岐阜県教育委員会学校支援課並びに各教育振興事務所の方々のお力添えを得て推進され、『入賞論文集（第18集）』の発刊（平成15年5月10日）をもって完結した。関係各位に心から感謝申し上げたい。

1 今年度の応募状況とその傾向

論文応募者の内訳は、校長18名、教頭23名、教諭等1,329名、養護教諭40名、学校栄養職員10名、事務職員4名である。

性別では、男性が763名、女性が661名、校種別では、小学校883名、中学校541名である。

応募論文の領域については、教科では、国語科、算数・数学、社会科が多くその中で最も多かったのが国語科の165編である。他の領域では、総合的な学習時間に関する論文が143編と多かった。

2 審査会を通して

例年同様、優秀な実践論文が多く集まり、慎重な審査の結果、最優秀賞に岐阜市立長良西小学校服部晃幸教諭の論文（表題は上記）が選ばれた。

服部教諭の論文は、学習指導要領の基本的な方向をふまえ、とりわけ「公民的資質の基礎を養う」ことを目指してテーマを設定し、確かな理論に基づいて研究内容を具体化し、授業実践に継続的・累積的に取り組み研究を深めたもの

で極めて優れた論文であると評価された。

審査の過程では、それぞれの論文について優れている点と共に、課題や改善点等が交流された。

- (1) 学習指導要領の趣旨や内容をよくふまえて取り組まれており、「つけたい力」を明確にした指導計画が立てられ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導過程や学習形態等に工夫が見られる。
- (2) 仮説から評価に至る研究過程が的確にふまえられ、実践を通して得られた成果や課題は他の人の実践にも大いに役立つと思われる。
- (3) 「学ぶ楽しさや充実感」「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「地域人材の開発」等、教育の今日的な課題がふまえられ、児童・生徒が活かされている。「理論と実践の統一」の面でも、「研究の継続」の面でもよく努力されていて、まさに「実践研究論文」に相応しい。
- (4) 社会科の論文の多くに「自分の生き方を創る」とあるが、それは子どものどんなところに表れているのか、もっと具体像で示す必要がある。
- (5) 最近の論文は、パソコンを駆使して作成されるので、量も多くカラフルであるが、論文の質もそれに伴うよう努力したい。子どもの「よさ」をどう捉えるか、子どもの変容をどう捉えるかについて今一步深めたい。
- (6) 共同研究の場合、連名で提出される場合が多いが、指導にあたる個々の教師の係わり(役割と実践)を明確に記述したい。
- (7) 今年度は管理職(教頭)の論文も入選(優良賞)に選ばれたが大変よいことである。今後もこの分野への応募を大いに期待したい。

3 子どもが育つ実践研究を求めて

戦後の義務教育も五十数年を経て、遂に変革期に入った。児童生徒に「自ら学び、自ら考える」等の生きる力をいかに培うか。教師の指導力が問われる今ほど、授業改善につながる研究が求められている時はない。

日々の実践の中で、一人一人の児童生徒に応じたきめ細かな指導と共に、新しい着眼点が必要とされる。それは、本質に根差したところから生まれると考えられる。

教育実践研究論文の審査の観点は、「教育の今日的課題のふまえ」「研究実践の創造性・妥当性」「論旨の明確さと継続性・論理性」「児童生徒の成長や変容の姿とその記録の確かさ」「明確かつ的確な表現・表記」の5つの観点から成る。これは、平成6年度の第1回教育実践研究論文の審査観点と大きく変わっていないが教育の不易なる在り方をふまえ、時代の変化に対応できる教育実践をいかに創造するかが鍵である。

論文応募は自己の教育観を構築し、教育的識見を高める良い機会である。旺盛な探究心や先駆的な視野をもって創造的で斬新な研究に挑戦していただきたい。とりわけ、若い教師の果敢な挑戦を期待している。

教職員をめざす皆さんへ

喜びを感じる一瞬の素晴らしさ

酒井博子（平成12年度社会科教育卒）

教職に就いてから早くも3年目に入り、初めての土地・初めての教育現場にもだいぶ慣れてきて、出会った子どもたちとの思い出も月日と共に積み重なってきています。

学校での生活の中にはたくさんの一瞬があります。「楽しい一瞬」「うれしい一瞬」「興奮する一瞬」など心がドキドキ、ワクワクする時間、それに対し「悲しい一瞬」「苦しい一瞬」など辛くて悩む時間もあります。しかし、辛くて苦しい時間を一瞬で拭い去り、喜びに変えてしまう一瞬が、子どもたちと過ごす日々にはあり、それを求め感じることができるのが教員としての「宝物」ではないかと思います。

教員になって一年目の時でした。ある活動についてこれから何をしていけばいいのか、自分と子どもたちに何ができるのか行き詰まり、とても悩み苦しんだ時期がありました。悩んだ末、子どもたちに「こんなことを考えたけれど、どうかな」と持ちかけたところ、子どもたちはとても前向きな反応を返してくれました。その時、私は子どもたちの否定的な反応を想像していたため、その前向きな反応に驚きました。そして昼休みにそれに関わる仕事をしていると、子どもたちの方から「一緒にやりたい」「何をすればいいの」と近づいてきて、一生懸命に活動してくれました。その後の活動でも、学級全員が一丸となって最後まで取り組んでいくことができました。その時、子どもたちが見せてくれたやさしさとやる気のエネルギーに、私はこれまでの苦悩から一瞬にして救われ、喜びから涙があふれ出てきました。そして子どもたちに対して、「ありがとう」という気持ちで一杯になりました。この一瞬（とき）が、教員をやっている良かったと、初めて心の底から感じた一瞬（とき）ではないかと思います。

子どもたちは、毎日違う表情を見せてくれます。勉強が分からなくて一緒に考えていた時に理解できた時の輝きに満ちた顔、クラスで一つのことを打ち込む時の真剣な顔、困っている友達や私を気遣ってくれる優しい顔など、一人ひとりがいろいろな顔を一日の中で見せてくれます。学校での日々は、一日一日が全く異なるものであり、同じ日はありません。その中で、子どもたちと一緒に「喜びを感じる一瞬」を、これからも求め感じていきたいと思っています。そして子どもたちから多くを学びながら、「宝物」を積み重ねていけたらと思います。

ありがとう！女子バレーボール部！！

～学級通信『ハラマコのひとりごと』より～

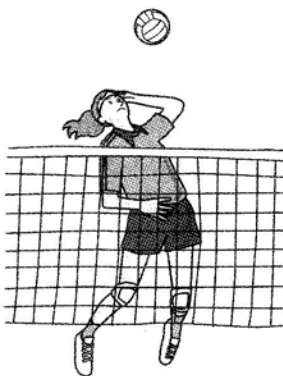
原 誠（平成11年度理科教育(化学)卒）

私は担任になってから100号を超える学級通信を毎年発行しています。その中に『ハラマコのひとりごと』というコラムを載せています。このコラムには私の経験や感じたことを書いていて、生徒にはそこから担任の想いを感じて欲しいと願っています。今回は今年書いたコラム中から一つを紹介します。教職員をめざす皆さんには、この文章を読んで何かを感じ取ってもらえれば幸いです。

僕が顧問をしている女子バレー部は中体連市大会で優勝することができました。この大会ではいかに選手のプレッシャーを取り除くかということを考えました。というのは前回の春の大会では同じチームで本校は優勝しているので、「前は勝ったのにここで負けたら意味がない」とか「負けたら恥ずかしい」という気持ちがどうしても生まれてくるからです。そういう気持ちで戦っては気持ちの上で相手の方が優位になってしまうので、勝てる試合も勝てなくなってしまいます。そこで僕は「前は勝ったけど、本校は中体連ではずっと優勝してないチームなので、ここで負けても恥ずかしくないし、むしろ当たり前だ。だから挑戦者のつもりで戦おう！3年生にとってはこの夏が最後になるので、バレーボールができる喜びを味わって、とにかく楽しもう！」と試合前には話をしました。そんな話の成果があったかどうかは分かりませんが、1試合目の1セット目は勝つことができました。ところが2セット目になると1セット目が嘘のように相手にどんどん点を取られ、かなり差がついて負けてしまいました。2セット目の一番の敗因はキャプテンの不調でした。2セット目が終わった時点でキャプテンは「負けたのは自分の責任だ！」と言ってパニックになっていました。僕はこのままではまずいと思ったので、「キャプテンは調子が悪いから、今日はミスしてもいい！他の人は今までキャプテンに支えてもらってきた分、キャプテンを支えてキャプテンの分までがんばってやってくれ！」と、少しでもプレッシャーがなくなるように話しました。3セット目は接戦になりましたが、19-19の同点という一番試合の流れを左右する時に、本校に流れを持ってきたのがキャプテンのサーブでした。今日は全くいい所がな

かったキャプテンのサーブでしたが、ここ一番という大切な時に3本サーブを決め、本校に勝利をもたらしました。続く2試合目の1セット目でも、23-22で本校がリードした大切な場面でのサーバーはキャプテンで、それでも2本決めて勝ちました。そして、そのまま2セット目も勝ち、優勝することができたわけです。

女子バレー部が優勝できたのはプレッシャーに負けずに戦うことができたからだと思います。なぜプレッシャーに負けなかったかということ、毎朝、きちんと朝練に参加したり、あいさつをしっかりとしたり、学校生活をまじめに送ったりしてきたからだと思います。普段いい加減なことをしている人はピンチの時に必ず失敗します。なぜならプレッシャーに耐えられないからです。僕はバレー部の生徒に「バレーがうまくなりたかったら、あいさつをしっかりとしよう!」と言い続けて来ました。この成果が大会で少し出たような気がするのうれしかったです。僕は自分が主顧問になって中体連の優勝旗をもらったことがなかったので、生徒と同じくらい(それ以上かも…)うれしかったです。生徒のみんなには感謝しています。これからも、勝ちという喜びを通して、みんなには人間として成長してほしいと願っています。優勝させてくれて本当にありがとう!



学生の就職状況

総務部会長 岩田恵司

1 学部学生、大学院生の進路状況について

学部4年生の310名の就職等動向については、先ず、平成16年度教員採用試験受験者数は182名で内採用試験合格者数は49名、大学院進学者は29名である。教員志望の学生の内140名が現在臨採及び他の就職活動に取り組んでいる。教員志望以外の学生128名については就職内定者も多数であるが全体を把握するに至っていない。（表1、グラフ1参照）

グラフ1

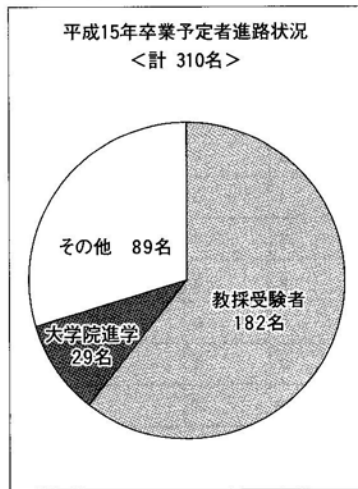


表1 学生進路状況

講座等名	4年次学生数	教採受験数	教採合格数	大学院進学
国語教育	19	15	4	1
社会科教育	42	25	9	4
数学教育	17	11	4	3
理科教育	50	36	9	7
音楽教育	16	9	2	4
美術教育	11	4	0	1
保健体育	14	14	2	0
技術教育	15	12	3	0
家政教育	12	10	1	0
英語教育	24	14	4	0
学校教育	25	4	1	4
生涯教育	10	6	3	0
障害児教育	17	14	6	2
生涯教育課程	38	8	1	3
合計	310	182	49	29

大学院修了予定者の平成16年度教員採用試験合格者数は14名である。

2 平成16年度岐阜県教員採用試験結果について

学部学生の岐阜県教員採用試験結果について

学部学生の岐阜県教員採用試験結果を以下の表2に示す。

表2

講座等名	岐阜県小学校			岐阜県中学校			岐阜県高等学校・特殊教育		
	受験者数	一次合格数	二次合格数	受験者数	一次合格数	二次合格数	受験者数	一次合格数	二次合格数
国語教育	9	7	3	2	2	0	0	0	0
社会教育	14	7	4	4	3	3	1	0	0
数学教育	3	2	1	5	4	2	1	1	0
理科教育	19	10	3	9	4	4	1	0	0
音楽教育	5	1	1	3	1	0	0	0	0
美術教育	1	0	0	3	0	0	0	0	0
保健体育	6	2	1	3	0	0	0	0	0
技術教育	2	1	0	5	2	1	2	1	1
家政教育	7	3	1	2	0	0	0	0	0
英語教育	3	2	0	9	8	4	0	0	0
学校教育	3	1	1	0	0	0	0	0	0
生涯教育	5	2	2	0	0	0	5	3	2
障害教育	3	2	2	0	0	0	0	0	0
生涯課程	3	1	0	1	1	0	0	0	0
合計	83	41	19	46	25	14	10	5	3

既卒者の就職について

平成14年3月卒業生で岐阜県教員志望者の内不運にも不採用となり、臨時採用者として採用された卒業生57名については、所属学校長宛に当該同窓生への指導を同窓会長から文章にて御依頼した。16年度採用試験ではそのうち15名が内定者となり来年4月から正式採用となる。平成13年3月以前の卒業生の採用試験合格者数は39名である。

県外の採用試験結果について

愛知県の採用試験合格者数は8名、以下名古屋市が3名、神奈川1名、兵庫1名であり、県外の採用試験合格者数は13名である。

記念碑建立にかかわる経緯報告

記念碑建立実行委員会

1. 平成15年度理事会・評議会で以下を承認した。
 - ・長良跡地に記念碑を建立し教育学部創立130周年記念事業の一環として位置づける。
 - ・記念碑建立については実行委員会を組織しこれにあたる。
 - ・記念碑建立に当たっての予算の大枠は500万程度とし、事業活動基金からこれを支出することとする。細部については、必要に応じて運営委員会で承認することとする。
2. 平成15年度第1回実行委員会で以下を承認した。
 - ・会の名称を「長良跡地記念碑建立実行委員会」(略称 記念碑委員会)とする。
 - ・委員長を岩田総務部会長、副委員長を松田総務部副会長とした。
 - ・建立に当たっての役割分担について確認した。
 - 総括 岩田委員長、松田副委員長
 - 碑デザイン、材質等の検討 辻委員、青山委員
 - 予算・業者との折衝 岩田委員長、松田副委員長
 - 対外折衝 岩田委員長、松田副委員長、高橋委員、八神委員
3. 以後実行委員会は11月までに4回開催し、その間、記念碑建立に関して、岐阜建設事務所への依頼と調整、建立計画の立案、業者の選定、予算の作成を審議した。その結果、実行委員会として記念碑について以下の計画をとりまとめ、岐阜県の内諾を得た。

記念碑計画

設置場所 長良公園(教育学部跡地)、雄総加納線バス停に面した場所
内 容 本体(インド産サファイアブラウン W3000,D1700,H1700)の表に「岐阜大学教育学部跡地」の文字を彫り込み、裏に教育学部の沿革を記したステンレス板を嵌めこむ。

4. 12月6日開催の運営委員会で上記記念碑計画について審議しこれを承認した。

今後の取り組み

記念碑建立にかかわる130周年記念事業計画を立案し、運営委員会、理事会・評議会に提案・承認を得て16年実施に向け検討する予定である。

各同窓会の活動

史 学 科

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 山口 正浩)

(1) 史明会総会

- 期 日 平成15年 8月17日
- 場 所 岐阜会館

① 総 会

- ② 講 演 「平安の都は臭かった」 — 糞公害からの脱却 —
講師：前各務原市教育長 浅野 弘光 先生

③ 懇親会

(2) 同窓会誌「史明」13号発行(平成15年11月1日)

社会科(地理)

(事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 奥村 雅人)

(1) 第29回同窓会「濃飛の集い」…第35回生(代表 寸田良隆)が担当

- 期 日 平成15年 8月2日(土)
- 会 場 墨俣町立さくら会館

① 総 会

- ・ 会長あいさつ
- ・ 担当回生のあいさつ
- ・ 恩師のあいさつ
- ・ 会計報告
- ・ 事務局より

② 海外レポート「タイ北部のくらしぶりについて」

岐阜大学教育学部教授 野元 世紀 先生

県外研修報告「沖縄フリースクールについて」

岐阜市立三輪南小学校教諭 奥田 明夫 先生

③ 三洋電機の見学

(2) 機関誌『濃飛』第34号発刊

(3) 次回の活動予定 平成15年 8月6日(土)

第36回生(代表 松尾國雄)担当

社会科(哲学)

(事務局 岐阜市立加納小学校 桑原 奈津子)

(1) 哲学科同窓会「夏の集い」

- 開催日 平成15年8月9日(土)
- 会場 グランヴェール岐山
- 内容 講演「イスラムの考え方」

岐阜大学教育学部教授 小澤 克彦 先生
講演「NIEの実践を通して」
揖斐川中学校教諭 香田 明彦 先生(昭和63年度卒業生)

(2) 定例代議員会

- 開催日 平成15年8月9日(土)
- 会場 グランヴェール岐山
- 内容 平成14年度事業報告 会計報告
平成16年度事業計画

毎年開催している「夏の集い」には、今年度、会員27名、大学より小澤先生、小林先生のご参加をいただき29名が集まりました。会員は、昭和31年度卒業生から平成14年度卒業生まで幅広い年齢層からの参加がありました。

講演は、イスラム社会の歴史や思想などについて学んだり、イスラム社会に対する私たちのものの見方や考え方を今一度見つめ直したりする貴重な学びの場となりました。また、新聞を活用した教育の在り方についても、具体的な実践を通して学ぶことができました。

今年も、講演の後には有志で会食をし、互いの近況を交流することができました。

数 学 科

(事務局 岐阜市立長良東小学校 早川 剛)

(1) 総 会

- 開催日 平成15年5月10日(土)
- 会場 岐阜大学教育学部本館7階第一会議室
- ① 講演 講師 岐阜大学教育学部助教授 山田 雅博 先生
- ② 研究会

発表者 42期 大坪 辰也
(岐阜市 青山中学校)
45期 曾我部聡子
(本巣郡 真正中学校)
42期 長屋 浩嗣
(岐阜市 長良東小学校)



(2) 同窓会名簿「わしょう」の作成

本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、6月末に会員に名簿を発送した。

(3) 夏期研究会

- 開催日 平成15年8月9日(土)
- 会場 Yu・Me(ユウミイ)ハウス 吉城郡河合村稲越
- 研究会
発表者 46期 日比野能之(大野郡 久々野中学校)
47期 畑中 裕史(美濃加茂市 太田小学校)

(4) 今後の活動予定

3月に運営委員会を行い、来年度の計画を立てる予定。

理科(物理)

(事務局 白川町教育委員会 鈴木 雅史)

平成14年11月16日、「小林正典教授の還暦を祝う会」が岐阜大学物理教室の呼びかけにより、同窓会との共催で実施できた。当日、60名を超える出席があり、小林先生の還暦をお祝いすると共に、旧交を温めることができた。

また、平成15年度同窓会名簿を作成したので11月中に配布する予定である。

理科(化学)

(事務局 岐阜県立大垣養護学校 華井 章裕)

(1) 総会(隔年8月頃)

平成16年8月開催予定

同窓会報「かんきせん」第16号 10月20日発行

同窓会名簿(平成14年度版) 既刊

(2) 「岐阜かがく教育研究会」の活動

化学科に限らず、他の学科、他の大学出身者も一緒に研究活動をしている。

総会：平成15年12月27日(土)午後6時半

会場：グランヴェール岐山

研究発表会：総会当日午後を予定

(3) 「修士論文及び卒業論文発表会」及び「追い出しコンパ」への参加

毎年2月に開催される修士論文及び卒業論文発表会とその後開催される追い出しコンパに、OB10名ほどが参加し、実業界からの助言や学校現場からのアドバイスがなされ、在学生との交流が深められている。

(4) 「理科大好きボランティア」の募集と「理科教室開催」の支援について

独立行政法人科学技術振興機構では「理科大好きボランティア」(理科や科学をもっと好きになってもらうために、実験教室・工作教室・観察教室

などを計画・実施する人)を募集しています。興味のある方、詳細をお知りになりたい方は事務局 (E-mail : ahanai@jp.bigplanet.com) にお問い合わせください。

理科 (生物)

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 船戸 智)

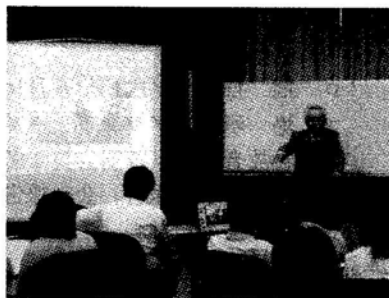
(1) 総会 (隔年、次回17回目の総会は平成17年8月に予定)

同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。

- 期 日 平成15年8月17日 (日)
- 場 所 岐阜大学柳戸会館

① 講演：田中 晃先生〈生物科7期生〉『オオタカの生態と環境問題』
里山のシンボル・オオタカの保護と環境保全の実践紹介をしていただいた。

② 卒論報告：桐山 紀子先生
〈生物科50期生〉
『各研究室での研究内容』
各研究室における最近の研究内容を、詳しく説明していただいた。



(2) 生物教育研究会 (2ヶ月に1回、実践交流会は毎年12月の第2日曜日の予定)
同窓会員の自主的な自然観察及び、実践交流を行っている。

(3) 機関誌「岐阜の生物」

毎年12月に発刊、全会員に郵送している。(本年度は第16号を発刊の予定)

理科 (地学)

(事務局 岐阜県博物館 古田 靖志)

- 事務局では、会員住所等を調査し、同窓会名簿を作成した。
- 平成15年度は同窓会や総会等は開催しなかったが、有志が集まって地学教育の研究会や親睦会などを行った。

美術科

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 後藤 弘行)

(1) 総会

- 期 日 平成15年8月11日 (土)
- 会 場 岐阜大学教育学部附属中学校

- 内 容
多くの評議員の方に参会いただき、これまでの同窓会の歩みを水谷重信理事からお聞きしました。また、組織の改正・規約の一部改正・会計報告・今後の同窓会活動について話し合いました。
- (2) 会 計
年次代表（評議員）の方には連絡してありますが、終身会費を納めていない年度があります。年次代表の方を中心に会費の集金・納入をお願いします。
- (3) 今後の活動予定
名簿の更新・美術科同窓会のホームページの開設を計画しています。年次代表（評議員）の方のご協力をお願いします。

体 育 科

（事務局 各務原市立鷺沼第三小学校 石子 裕朗）

- (1) 総 会
 - 期 日 平成15年6月14日（土）（84名出席）
 - 場 所 グランヴェール岐山
 - ① 物故者報告（特別会員1名、一般会員6名）
 - ② 14年度事業報告、会計報告及び会計監査報告の承認
 - ③ 15年度事業計画、予算の承認
 - ④ 役員はこのまま継続
- (2) 役員会及び常任理事会
15年1月～6月の間に6回開き、下記について検討及び実施した。
 - ① 在学生優秀選手の選出の検討及び表彰
 - ② 同窓会入会式の検討及び実施
 - ③ 「同窓会総会」及び「還暦祝いの会、懇親会」の計画及び開催
 - ④ 16年度発行予定の同窓会員名簿作成の手順について

技 職 科

（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 吉田 竹虎）

- (1) 総会（3年ごと）
今回は、平成17年10月の開催を予定している。各地区ごとに開催されているが、次回は『岐阜地区』で開催予定。
- (2) 同窓会名簿（総会の年に全員に配布）
総会の年に全会員の自宅に郵送している。新規会員の追加、改訂などの作業を学年幹事が中心になり行っている。
- (3) 組 織
技職科同窓会全体は『名誉顧問』『会長』『副会長』『理事（地区代表）』

『学年幹事』『庶務幹事』『事務局』という組織が確立されており、少しずつ修正を重ねながら、計画的な会の運営がなされている。また、学年ごとに同窓会を行い、近況の交流を重ねている。

家政学科

（事務局 岐阜市立西郷小学校 佐藤 恵）

- (1) 平成15年度の活動
 - ・会員名簿作成
平成15年度版を作成し、年次代表者に配布
- (2) 平成16年度の活動
 - ① 「総会及び同窓会」を以下のように開催予定（開催周期5年毎）
日 時：平成16年8月8日（日）11：00～14：00
会 場：グランヴェール岐山
参 加：家政学科同窓会全会員に参加を呼びかけ、恩師の先生方もお招きします。前回は100名以上の参加の中、楽しい一時が過ぎました。今回も多数のご参加を期待しています。
※ 案内は、来年の4月に送付予定です。
 - ② 総会及び同窓会開催に伴い、「年次代表者会」を以下のように開催予定
日 時：平成16年4月10日（土）11：00～13：00
会 場：グランヴェール岐山
参 加：年次代表者、役員、世話係
 - ③ 平成16年度版会員名簿を作成し、全会員に配布予定

英語英文学科

（事務局 真正町教育委員会学校教育課 杉山 博文）

- (1) 第1回本部役員会
 - 期 日：平成15年11月9日（日）午前10時～
 - 場 所：未来会館喫茶室
 - 内 容
 - ① 平成15年度理事・評議員会について（協議）
 - ② 平成15年度総会開催について（協議）
 - ③ 名簿作成について（協議）
- (2) 理事・評議員会
 - 期 日：平成15年12月6日（土）14時
 - 場 所：岐大柳戸会館
 - 内 容
 - ① 各理事及び評議員の近況報告

- ② 今後の計画について（確認）
- ③ 平成15年度総会について（内容紹介、案内状送付依頼、出席者確認依頼）
- ④ 名簿作成について（作成手順の確認、各期毎に作成依頼）
- (3) 第2回本部役員会（必要に応じて開催）
 - 期 日：平成16年1月初旬
 - 内 容
 - ① 総会の運営について確認等
 - ② 名簿作成の進捗状況について
- (4) 平成15年度総会
 - 期 日：平成16年1月31日（土） 10時～15時
 - 場 所：岐阜会館
 - 内 容
 - ① 総会（会務報告、会計報告、役員改選、新会長挨拶、名簿作成報告）
 - ② 講演会「小学校における英語教育」 松川 禮子 先生
 - ③ 懇親会
- (5) 今後の活動
 - ① 3年ごとに総会の開催
 - ② 会員名簿の作成



— ・ 編集後記 ・ —

☆ 同窓会報 第9号のお届け

同窓会の三つのキーワードは、共通・発展・継続であるといわれている。

この36ページに凝縮された記事は、ことば足らずの面はあるものの、私たち同窓会会員の共通話題になりうるものであると確信している。更に、新事業へのチャレンジは同窓会発展へ結びつくものであると信ずる。現場でご活躍の若い先生方の声も継続。そんな中味を一杯詰め込んで、同窓会報をお届けできるのは嬉しい限りである。

☆ 大澤会長から山口会長へ

大澤肇氏から山口正和氏へとトップが交替した。会長の交替とともに、副会長以下も多少若返った。1期2年間ではあったが、大学自体が大きく揺れ動いた時期だけに、ご心労を煩わしたことと思う。大澤氏に厚く感謝したい。

新しく着かれた山口会長には、母校の発展が同窓会の発展という姿勢を堅持しつつ、将来を見据えた舵取りをお願いしたい。また、会長のことばにある「如実知見」をモットーに、役員、理事、評議員並びに全員一体となって同窓会を盛り上げていきたい。

☆ 記念碑建立、16年実施に向けて

長良公園(教育学部跡地)に教育学部創立130周年記念事業の一環としての「記念碑建立」計画が、実行委員会のお骨折りで着々と進められている。

かつての青春時代を思い出させる事業。ぜひ一度その跡地を訪ねてみたいものである。インド産サファイアブラウンの記念碑が輝くのは平成16年である。

☆ 岐阜県教員採用の結果から

今年の小中高の採用試験合格者は現役・既卒者を含め総計117名である。その内、岐阜県内では現役が36名で院生と卒業生を含めて68名であった。県外での合格者数は13名である。

昨年と比べて、採用試験にトライした現役生が大幅に増えた。朗報である。不運にも受験競争に敗れはしたが、臨時採用者として採用され、再度チャレンジしている先輩も多い。頑張れ、岐大生。院生。卒業生の皆さん。(S)

第9号 平成15年12月発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

発行者 山口 正和

岐阜大学教育学部内

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

TEL・FAX 058-293-2344